

報道関係各位

2025.06

福田美術館・嵯峨嵐山文華館

SHŌEN UEMURA

上村松園と美人画の軌跡 Uemura Shōen and
the Trajectory of Bijin-ga



福田美術館：「上村松園と美人画の軌跡」
嵯峨嵐山文華館：「浮世絵と美人画の軌跡」

松園生誕150周年を記念し、二館共催でコンセプトの異なる美人画展を開催！

思わず絵の前で立ち尽くしてしまうほど清らかな女性たち——その作品で今もなお人々を魅了してやまない、美人画家・上村松園（1875～1949）。彼女は生涯を費やして理想の美を追い求め、珠玉の作品を数多く生み出し続けました。福田美術館では松園の生誕150周年を記念し、質・量ともに国内有数の美人画コレクションを誇る当館の所蔵品から、28点もの松園の作品を一挙展示する「上村松園と美人画の軌跡」を開催します。第1回文展で3等賞を受賞した、初期画業における名作《長夜》のほか、初公開作品である《二軒茶や図》も見どころです。さらに、松園の芸術に憧憬し、美人画を追究した多くの作家たちの作品も併せて展示することで、「近代の美人画」というジャンルが辿ってきた軌跡を紹介します。

第二会場の嵯峨嵐山文華館では、江戸の出版や浮世絵に注目が集まっている今、福田コレクションの江戸時代の肉筆画や、同時代の京都の風俗画を展示する「浮世絵と美人画の軌跡」を開催します。さらに、歌舞音曲(かぶおんぎょく)やお座敷などの文化にも注目し、「浮世」一心浮き立つ楽しさのある世——を彩った女性たちが集います。展示作品には京都の芸妓たちを描いた祇園井特（ぎおんせいとく）による肉筆作品の数々や、歌舞伎を愛した鍋木清方が可憐な女性像を描いた《宇治の蛍かり》のほか、9点の初公開作品も含まれています。

会期：2025年10月11日（土）～2026年1月18日（日）

前期：10月11日（土）～12月1日（月） 後期：12月3日（水）～2026年1月18日（日）

- 【主催】 福田美術館、嵯峨嵐山文華館
【後援】 京都府、京都市、京都市教育委員会、京都商工会議所
【会場】 福田美術館、嵯峨嵐山文華館

第1会場：福田美術館

第1章 上村松園と近代に活躍した女性画家たち

美人画の第一人者にして女性画家のパイオニア

1人の女性にスポットを当てた絵が描かれるようになったのは、江戸時代からのこと。浮世絵師たちによって描かれた美人画の流れを踏襲しつつも、独自の画風で美を極めた画家、それが明治から昭和時代にかけて活躍した上村松園（1875～1949）です。松園は京都に生まれ育ち、竹内栖鳳（たけうちせいほう）に師事した後は、文展で次々と入賞するなどしてその画業を認められます。1948年には女性として初めて文化勲章を受章しました。当時男性中心の画壇で活躍する女性は珍しかったため、その存在は大いに注目を浴び、松園は多くの画家を志す女性たちの憧れとなります。大正時代以降、美人画を専門に描く日本画家たちも数多く現れることとなりました。第1章では、**第1回文展で3等賞を受賞したことで著名な《長夜》、福田美術館では初展示となる《二軒茶や図》**をはじめとする松園の名作に加え、松園に続く次世代の女性画家たちの作品も併せてご紹介します。



上村松園《二軒茶や図》（部分）1936年頃
福田美術館蔵 前期展示

第2章 東西で活躍した個性豊かな美人画家たち

「三大美人画家」の名品ほか、新所蔵品の門井掬水（かどいきくすい）《舞踊の楽屋》に注目



門井掬水《舞踊の楽屋》昭和時代 福田美術館蔵 通期展示

上村松園、鍋木清方（かぶらききよかた）、伊東深水（いとうしんすい）は「三大美人画家」として知られています。江戸の浮世絵の伝統を受け継いだ清方は、情趣にあふれる女性像を得意とし、深水をはじめ数多くの弟子を育てました。第2章では男性の視点で描かれた理想の女性像を中心に、東京の清方の弟子たちの作品と、京都・大阪で同時代に活躍した画家たちの作品を展示します。

展示室の最後のコーナーでは、京都画壇出身の谷角日沙春（たにかどひさはる）の作品を紹介します。日沙春は美人画を進化させ、最終的には幾何学的な図形の構成による抽象画を描きました。



伊東深水《海風》1942年
福田美術館蔵 通期展示

第3章 現在につながる「美人画」の軌跡

新たにコレクションに加わった現代美術も展示！



岸田劉生《村娘之図》1919年
福田美術館蔵 通期展示



岡田三郎助《裸婦》1924年
福田美術館蔵 通期展示

【作品点数】

福田美術館：合計 約70点

※うち初公開：約20点

明治から大正、昭和にかけて洋画を学んだ画家たちにとっても、女性の姿や精神性は重要なモチーフでした。第3章の前半では、岸田劉生（きしだりゅうせい）や小磯良平（こいそりょうへい）など、日本の近代絵画を牽引した洋画家たちによる女性像をご紹介します。

また、西洋の油絵の伝統技法を踏まえ、モダンで斬新な美人画を多数生み出した東郷青児（とうこうせいじ）の大作《草上の三人の娘》を福田美術館では初めて公開します。

近代から現代まで、女性をモチーフとしながらも、それぞれに独特の個性を発揮した画家たちの作品が並びます。

第2会場：嵯峨嵐山文華館

第1章 べらぼうに美しい浮世絵美人たち

「浮世」に咲いた多様な美人たちを紹介

大河ドラマ「べらぼう」では、大衆文化が花開いた「浮世」の時代が華やかに描かれています。当時、庶民の生活や風俗を描いた浮世絵が盛んに流通しました。浮世絵には印刷物である浮世絵版画と、絵師が筆を執った一点ものの肉筆浮世絵がありました。

第1章では、福田コレクションより江戸時代に描かれた肉筆浮世絵の数々をご紹介します。江戸中期から後期にかけて大阪画壇で活躍した浮世絵師・月岡雪鼎（つきおかせってい）の三幅対の作品《美人図》や、京都で活躍した祇園井特の作品も展示します。当時「大首絵」（おおくびえ）と呼ばれる人物の上半身や顔をクローズアップして描く浮世絵の技法としてしばしば用いられましたが、なかでも井特は肉筆の美人画に大首絵を取り入れ、思わず目を引く美人画を数多く残しました。



祇園井特 画・伊良子大洲 賛《紫女図》（部分）
江戸時代 福田美術館蔵 前期展示

第2章 舞台やお座敷に咲いた花

演目に登場する女性たちや花柳界で活躍する女性たちが畳ギャラリーに勢揃い



栗原玉葉《お七・お染》（部分）大正時代 福田美術館蔵 通期展示



鍋木清方《おさゝめ》1923年 福田美術館蔵 通期展示
©Kiyoo Nemoto 2025/JAA2500077

江戸時代には歌舞伎や浄瑠璃などの舞台芸術が花開き、役者を描いた浮世絵がブロマイドのように人気を博しました。また、吉原に代表される遊郭で芸事を披露する女性たちも、浮世絵の格好の題材となりました。畳ギャラリーでは、芝居の演目に登場する女性や芸事をたしなむ女性を描いた美人画を紹介します。「鑓の権三重帷子」で密通の疑いをかけられた女性を描いた鍋木清方《おさゝめ》、上村松園が描く遊女《花のさかづき》をはじめ、40歳で夭折した女性画家・栗原玉葉（くりはらぎょくよう）による《お七・お染》（当館初公開）などが、注目作品です。妖艶で可憐、そしてどこか儚い彼女たちの姿を「お座敷」で存分にお楽しみください。

【作品点数】

嵯峨嵐山文華館：通期 33点

前期 9点 後期 9点

合計 51点

※うち初公開：9点

プレス用画像（福田美術館）

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/syoen2025/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



上村松園《浴後美人図》1900年頃
福田美術館蔵 前期展示



上村松園《二軒茶や図》1936年頃
福田美術館蔵 前期展示



上村松園《長夜》1907年頃
福田美術館蔵 前期展示



上村松園《美人観月》1913年頃
福田美術館蔵 後期展示



上村松園《春風》1936年頃
福田美術館蔵 後期展示

プレス用画像（福田美術館）

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/syoen2025/>

※**鎗木清方・伊東深水**作品を除きトリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



門井掬水《舞踊の楽屋》
昭和時代
福田美術館蔵 通期展示
上：左隻
下：右隻



勝川春章《桜下遊女之図》江戸時代
福田美術館蔵 通期展示



甲斐狂楠音《娘道成寺》昭和時代
福田美術館蔵 後期展示



鎗木清方《庭前清趣》1927年 福田美術館蔵 通期展示
©Kiyoo Nemoto 2025/JAA2500077

※本作品はトリミング不可
※掲載にあたっては著作権者への確認が必要



池田蕉園《もの詣で・春の日》
1907年・1908年
福田美術館蔵 通期展示



伊東深水《海風》1942年
福田美術館蔵 通期展示

※本作品はトリミング不可

※掲載にあたっては著作権者への確認が必要



岡田三郎助《裸婦》
1924年
福田美術館蔵 通期展示



上村松園《しぐれ》1940年頃
福田美術館蔵 通期展示

プレス用画像（嵯峨嵐山文華館）

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。
<https://tayori.com/f/syoen2025/>

※**鎗木清方**作品を除きトリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



鎗木清方《おさみ》1923年
福田美術館蔵 通期展示
©Kiyoo Nemoto 2025/JAA2500077

※本作品はトリミング不可
※掲載にあたっては著作権者への確認が必要



中村貞以《蛇皮線》1933年
福田美術館蔵 通期展示



栗原玉葉《お七・お染》大正時代
福田美術館蔵 通期展示

プレス用画像（嵯峨嵐山文華館）

※広報画像は以下の申請フォームよりダウンロードいただけます。

<https://tayori.com/f/syoen2025/>

※トリミング可。その場合キャプションに（部分）と表記



鳥文斎栄之《蛩狩美人図》
江戸時代
福田美術館蔵 後期展示



北野恒富《むすめ》
大正～昭和時代
福田美術館蔵 通期展示



今尾景年《伎芸天図》
明治時代
福田美術館蔵 通期展示



大林千萬樹《花笠踊り》
大正～昭和時代
福田美術館蔵 通期展示



円山応挙 画・皆川淇園 賛
《美人図》江戸時代
福田美術館蔵 通期展示



上村松園《花のさかづき》
1935年頃
福田美術館蔵 前期展示



祇園井特 画・伊良子大洲 賛
《紫女図》江戸時代
福田美術館蔵 前期展示



歌川国貞《立美人図》
江戸時代
福田美術館蔵 通期展示

展覧会概要

- 企画展名 「上村松園と美人画の軌跡」・「浮世絵と美人画の軌跡」
- 会 期 2025年10月11日（土）～2026年1月18日（日）
 <前期>10月11日（土）～12月1日（月）
 <後期>12月3日（水）～1月18日（日）
- 開館時間 10:00～17:00（最終入館 16:30）
- 休 館 11月11日（火）、12月2日（火）、12月16日（火）、12月30日（火）、12月31日（水）、1月1日（木）
- 主 催 福田美術館、嵯峨嵐山文華館
- 後 援 京都府、京都市、京都市教育委員会、京都商工会議所
- アクセス
 - 第1会場／福田美術館
 〒616-8385 京都府京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-16
 JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩12分／阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩11分／嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩4分
 - 第2会場／嵯峨嵐山文華館
 〒616-8385 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11
 JR山陰本線（嵯峨野線）「嵯峨嵐山駅」下車徒歩14分／阪急嵐山線「嵐山駅」下車徒歩13分／嵐電（京福電鉄）「嵐山駅」下車徒歩5分
- 料 金

	一般	高校生	小・中学生	その他
福田美術館	1,500 (1,400) 円	900 (800) 円	500 (400) 円	* 障がい者と介添人1名まで各900 (800) 円 * 幼児無料 * () 内は20名以上の団体料金
嵯峨嵐山文華館	1,000 (900) 円	600 (500) 円	400 (350) 円	* 障がい者と介添人1名まで各600 (500) 円 * 幼児無料 * () 内は20名以上の団体料金
二館共通券	2,300円	1,300円	750円	* 障がい者と介添人1名まで各1,300円

プレスリリース／広報用画像に関するお問合せ

福田美術館／嵯峨嵐山文華館広報事務局（共同ピーアール内）
 担当：田中真衣、樋口
 TEL：03-6264-2045
 Email：fukudamuseum-pr@kyodo-pr.co.jp

一般の方からのお問合せ

福田美術館 TEL：075-863-0606（代表）Email：info@fukuda-art-museum.jp
 嵯峨嵐山文華館 TEL：075-882-1111 <https://www.samac.jp/contact/>

福田美術館について

美しい自然と日本美術の融和。日本文化の新たな発信拠点として

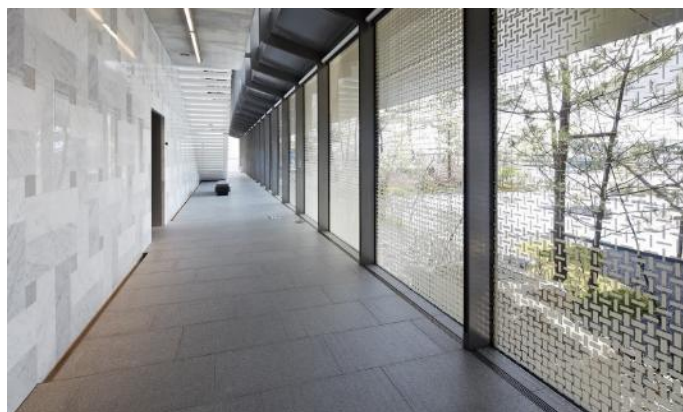
京都・嵯峨嵐山は古来歌枕でもある場所で、多くの貴族や文化人に愛され芸術家たちが優れた作品を生み出す源泉となってきました。オーナーである福田吉孝は京都に生まれ育ち、そこで事業を興し、今日まで続けてきたことに対し、地元の方々のご支援とこの地に恩返しをしたいという思いから、2019年10月、美術館の設立に至りました。今や日本国内だけでなく、世界中から多くの人々が訪れる観光地である嵐山。その中でも渡月橋を望む大堰川（桂川）沿いの景勝地に位置し、四季折々にそれぞれに変化する風景は1000年変わらず人々を魅了してきました。この美しい自然と共に日本美術の名品を愉しんでいただくことで、嵐山が世界有数の文化発信地となることを願います。

福田美術館は2024年10月で開館5周年を迎えました。今後も「100年続く美術館」をコンセプトに、現代まで受け継がれてきた日本文化を次世代に伝え、さらなる発展へとつなぐ美術館を目指します。



嵐山にふさわしい、未来へむけた日本建築の形

福田美術館の建築を手掛けた安田幸一氏は、「蔵」をイメージした展示室や外の自然とのつながりを感じられる「縁側」のような廊下など、伝統的な京町家のエッセンスを踏まえつつ、これから100年のスタンダードとなるような新しい日本建築を目指しました。また、庭には大堰川に連なる水鏡のごとく嵐山を映し出す水盤が設けられており、渡月橋が最も美しく一望できるカフェからは最高の眺めを味わうことができます。



嵯峨嵐山文華館について

百人一首の歴史と日本画の粋を伝えるミュージアム

1000年以上も前から歌枕として詠まれ、愛されてきた嵯峨嵐山の風景。当館はこの地で誕生したと伝えられる百人一首の歴史やその魅力と、日本画の粋を伝えるミュージアムです。石段を上がり、冠木門をくぐって足を踏み入れると、春はしだれ桜、初夏はサツキツツジ、秋は紅葉、冬は冠雪と、四季の美しさを楽しめる石庭。百人一首ゆかりの小倉山を背にし、大堰川を借景として取り込む2階からの眺めは、まさに日本画の世界のようです。



1階の常設展示では100体の歌仙人形（フィギュア）と歌の英訳が並び、藤原定家によって百人一首が撰ばれた時から昨今人気の競技かるたに至るまでの変遷をご紹介します。また120畳の広々とした2階の畳ギャラリーでは、じっくり座って自由に鑑賞することも可能。石庭を望むテラスにはカフェスペースが設けられており、景色を楽しみながらお寛ぎいただけます。

